

講義名	英語で学ぶグローバルコミュニケーション（総合）			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

今日の社会では、外国語を手段として使い、グローバルな視点で物事を考えることが益々、重要視されている。本コースはこのような現状に対応するため、異文化を理解し、文化的多様性に対して寛容な態度を持ち、世界に適用する基本的な英語力をもったグローバル人材を育成することを目的とする。授業ではテキストを使った演習や課題、クイズの実施により、異文化間コミュニケーション能力の育成を目指す。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。
 (1) 課題解決型のスキットを通じて、英語力だけでなく、グローバル人材求められるコミュニケーションスキルや課題解決力を身につけることができる。
 (2) 英語母語話者だけでなく、ノンネイティブ(英語母語話者以外)の人々の生の英語に触れることで、実際のグローバルな英語環境に親しむことができる。
 (3) ペアワークにより、日常の様々な場面における実践的な英語力を習得できる。
 (4) 基本文法やイディオムを習得できる。

提出課題

基本文法やイディオムに関する演習問題、テキストの内容に沿った会話文の作成、その他、授業で配布するテキストの内容に準拠して担当者が作成したワークシートに取り組み、さまざまな課題に取り組み。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回、小テスト（英文法やイディオム、テキストの各ユニットの復習クイズ）を実施し、理解が難しいと思われる設問について解説する。受講生が提出したワークシートの英語表現を添削指導し助言する。

評価の基準

(1) 小テスト (30%)
 (2) 課題 (30%)
 (3) 定期試験 (40%)

履修にあたっての注意・助言他

コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行いますが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となります。特別な理由のない1.5分以上の遅刻は欠席となります。また、5回以上欠席すると定期試験の受験資格を失い単位を取得できなくなります。教科書は必ず購入してください。当然、購入しているという前提で授業を実施します。教科書がないことにより生じる不都合は自己責任となります。課題はPDF形式で提出していただきます。スマフォからの写真やテキストでの提出は認められません。
 毎週、授業開始直後の約15分間を使ってクイズを実施します。詳細については第1回目の講義資料で説明します。提出課題を含むすべての連絡事項はRyuka Portalを通じて行いますので、必ず確認するようにしてください。

教科書

.Must-Have English Skills for Global Communication.	Shinichi Shibata,Rie Jindo, Lindsay Wells	Kinsaido	1,900	9784764740594
-----------------------------------------------------	-------------------------------------------	----------	-------	---------------

参考図書

その他

授業計画

- ガイダンスと自己紹介
- May I help you? (困っている人に話しかける)
- What do you do on the weekend? (初対面の人と会話を繋げる)
- That sounds interesting! (ポジティブ・ネガティブな意見を述べる)
- I'm not feeling well. (体調を伝える)
- You shouldn't stop there (注意する)
- Why don't we buy potatoes, too? (提案する)
- Would 5pm be convenient for you? (スケジュールを調整する)
- I'll have to pass. (依頼を断る)
- I have an idea. (解決策を提案する・協働作業をする)
- Could you do me a favor? (お願いする)
- I think you could explain this more. (アドバイスを)
- I don't get what you mean. (相手を聞き返す)
- I'm so sorry to hear that. (相手を助ます)
- That's not what I meant. (誤解を解く・真意を伝える)

*授業内容は毎回の進捗状況により、調整することがある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A: PBL (課題解決型学習)	<input type="radio"/> I: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> W: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> E: グループワーク
<input type="radio"/> O: プレゼンテーション	<input type="radio"/> C: 実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> K: その他 (A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：翌週の授業のための準備をし、課題を提出する。英文法やイディオムの課題やテキストのワークシートに取り組み、リーディングセクションの単語検索、次回のクイズの準備 (2時間)
 復習：その日に学習した内容の復習 (テキスト内容のリスニング、会話文やリーディングセクションの音読を含む)、その週の課題に取り組み。(2時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースでは英語学習を通じて、円滑な異文化間コミュニケーションに必要な知識とスキルを修得する。これは「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」を育成するという本学の全学共通目標のディプロマポリシーに沿ったものである。また、該科履修を通して海外の社会や文化について学び、基本的な語彙と内容理解・情報収集に習熟することにより、卒業時に身につけておくべき資質・能力の育成につながる。これらの能力は学部生に求められる業界界の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつわる情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回、授業に対するコメントや質問をGoogle formにより提出する。翌週の授業でクラスメートのコメントを共有し、質問に回答する。受講生からの提出物を添削し、フィードバックを行う。

実務経験の有無及び活用

備考

積極的な授業活動への参加と課題の提出は非常に重要です。テキストを購入しなければ課題を提出することはできません。履修登録後、すみやかに購入手続きをしてください。前掲のように、授業に関する連絡事項はすべて「講義連絡」を通じて行います。